

1節 通り鼻遺跡,
2節 横穴群および能登式製塩土器

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2021-02-15 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 金沢大学考古学研究会 メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/2297/00060484

This work is licensed under a Creative Commons Attribution-NonCommercial-ShareAlike 3.0 International License.



2章 能 登 島

能登島は、能登半島の腹部、七尾湾に浮かぶ東西約13km、南北約8kmの小島である。ここには佐波遺跡（縄文時代早期末葉～前期初葉）、曲へりさか遺跡（縄文時代）、向田遺跡（縄文時代・能登式製塩土器）、八ヶ崎中学校遺跡（弥生時代）、長崎古屋敷横穴古墳群、^{なべ}闕ヤマダ横穴古墳群、須曾えぞ穴古墳（以上は古墳時代後期）、野崎小学校遺跡（能登式製塩土器）、向田信光寺跡（室町時代）等、考古学上興味深い遺跡が数多く存在している。

当研究会は、74年7月22日から27日まで、能登島町通で合宿をし、全島にわたる分布調査を行なった。その際、通り鼻遺跡の発見をはじめとして、土器片、石器等の採集、横穴の略測などの成果を得た。その後75年12月26、27両日に、当報告書作製のため通り鼻遺跡および東島の横穴群（^{えのめ}鰻目コーケヤ、鰻目細川山【仮称】、長崎古屋敷、野崎）の再調査を行なった。以下に調査の結果を紹介する。

1 節 通 り 鼻 遺 跡

当遺跡は（地図3番）、島の西端、能登島町通にあり、海岸から約20m、海拔10数mの台地北端部に位置する。台地上からは北方眼下に小さな入り江が見え、西方は1km足らずの海をはさんで能登半島を望む。この遺跡は7月25日に、合宿を行なった宿舎の前面で発見されたもので、表土が剥がれ露呈した赤土から土器約100片、石器9点、フレーク約40片、土偶、耳栓各1点が採集された。74年の調査は台地端部に限られたが、その後75年12月の調査では台地上一帯（地図4番）からも土器1片、石器2点、フレーク約50片が採集され、今後、より綿密な調査が望まれる。

採集遺物

(1) 土 器（第21・22図1～57）

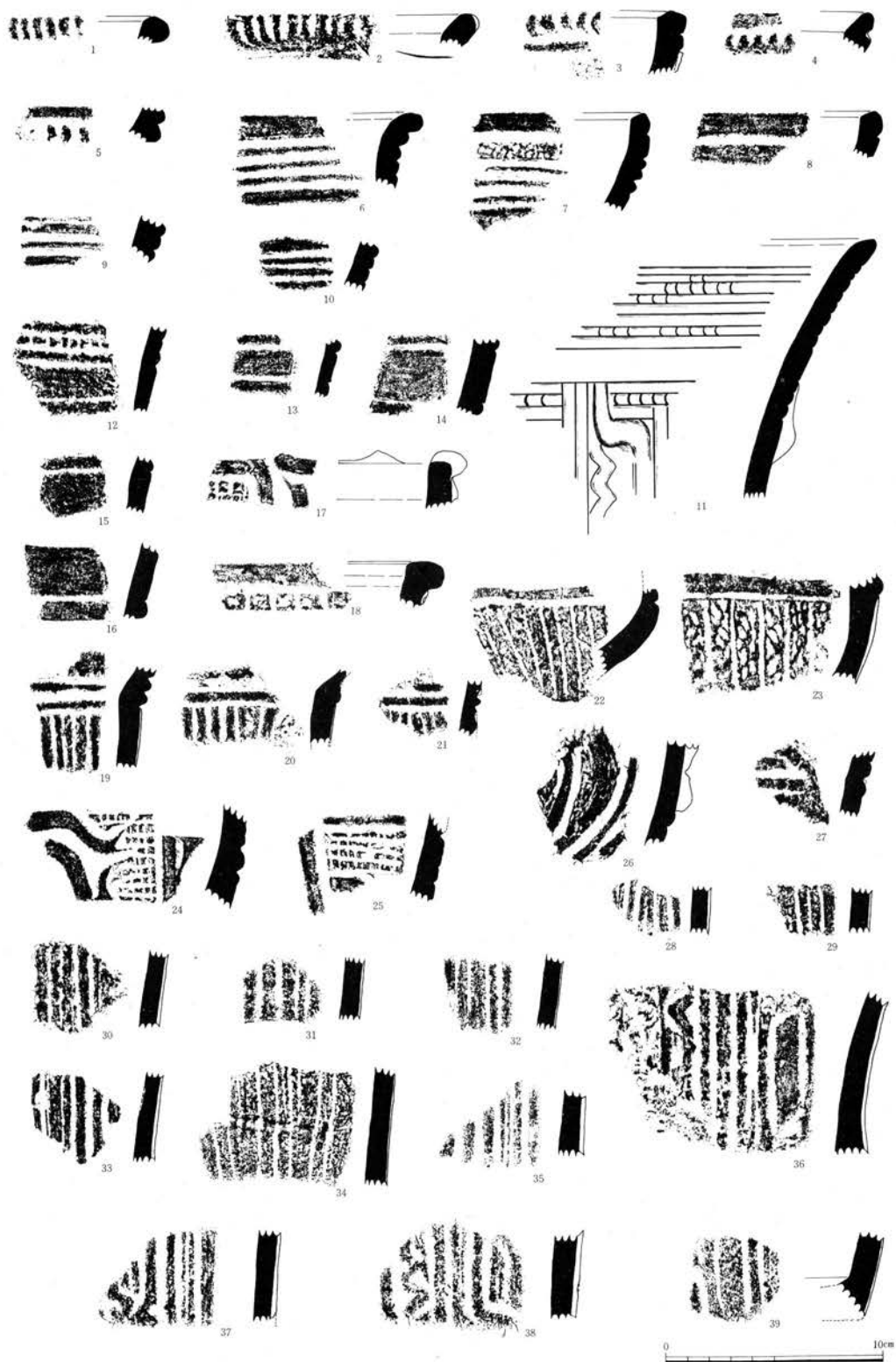
採集した土器片はすべて縄文式土器であるが、少量で細片が多くほとんどが著しく風化している。中には数種の文様によって器面が構成されているものもあり、したがって、ある文様のみをもってその土器片を特徴付けることはできないと思われる。そのため分類は難しいが、説明の都合上次のように大別した。

I 類—半截竹管による半隆起線文を主体としたもの

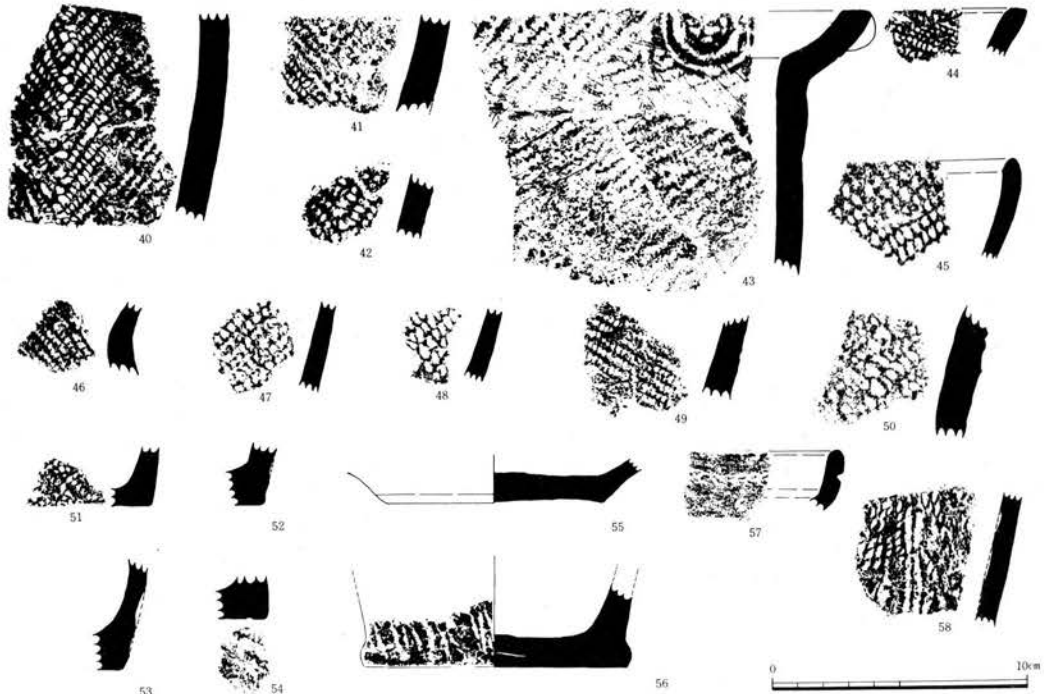
II 類—縄文を主体としたもの

III 類—その他のもの、および底部（ただし胴部の文様についてI、II類に属するものは除く）

この分類に従って以下概述したい。なお、「口唇」は口縁部に含まれ、特に口縁最端部を指すものとする。



第21図 通り鼻遺跡採集土器(1)



第22図 通り鼻遺跡採集土器 (2)

a I類 (1~39) 1~5は粗くやや深い爪形文を有する。6は口縁が外反し、8は少し太い半截竹管を用いている。11は口縁に平行に数条の半隆起線文が施されているが、爪形文を持つものと持たないものがある。さらに、その下に無文帯を設け、縦、横、波状の胴部文様体を半截竹管で作る。一部に「L」字から下方に延びる突起を有する。器形は深鉢と考えられ、胴部から口縁部にかけて緩く外反する。12~16も11と同様の文様構成であると思われるが、細片のため明らかでない。17・18は隆帯の下に2条の沈線を引き、その間を篋様工具で切つて方形の区画を設けている。口唇は平坦で大きい。17は三角形の小突起を有する口縁(「入」字状口縁)である。19・20は頸部と思われ、半隆起線文が横走り、その下方では縦に沈線化する。22はキャリパー形深鉢。23は縄文地に縦方向の沈線を描く。24・25は直線、曲線で区画を作り、その中に格子目状の文様を施している。26は弧を描く貼り付け隆帯の上、あるいはそれに沿って半隆起線文が見られる。27は斜行、横走る文様が合わさり、やや特異である。28~38は胴部下部と考えられ、縦方向に半隆起線文が並ぶ。36~38は半截竹管で縦に波状の文様を付けている。前述の11の場合も同様の施文方法を用いている。30は底部であり、34と同一個体と思われる。

b II類 (40~51) 40~42は縦の羽状縄文であり、他は単節斜縄文である。43は口縁に円形の突起を持ち、その回りを一条の沈線が巡る。頸部で「く」の字形に屈曲し、扁平な口唇である。器形はかなり大型の深鉢であろう。44は口縁部で、口唇は平坦である。45・48・50の縄文は比較的節が大きく、条とともに明瞭に施されている。45は口縁部である。46は外反しており口縁近く

と思われる。51は底部であるが、風化が著しい。

c III類 (52~57) 57は口縁に平行に棒状工具で沈線を描き、沈線中に押し引きによる三角連続圧痕文を施している。他の土器片とは明らかに異なる様相を呈している。

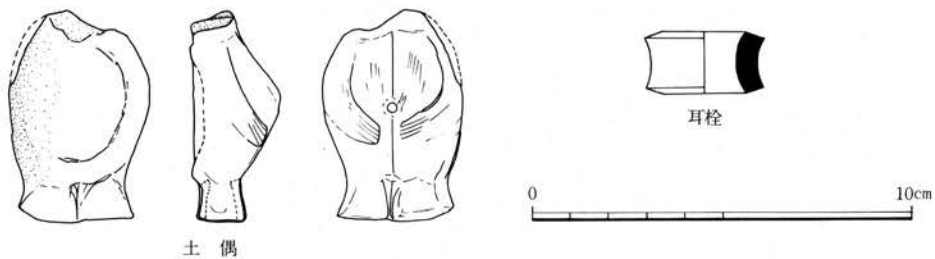
52~56は底部ですべて平底である。54の底面には数個の楕円形の圧痕が見られる。55は径8~9cmと推定される。56は推定径10~11cmであり、弱い張り出しを持つ。胴部器面には撚糸文が施文されている。

(2) 土 偶 (第23図)

腹部が突出して妊娠を表わし、足は胴体に比べて短かく、立像である。富山県福光町竹林遺跡^註に類例が見られる。頭部は欠損しているが、高さは6.5~7cmと推定される。

(3) 耳 栓 (第23図)

縄文時代中期に特徴的な耳栓であり、石川県宇ノ気町上山田貝塚(中期中葉)に類例が見られる。推定径3.1cm、幅約1.6cmである。



第23図 通り鼻遺跡採集土製品

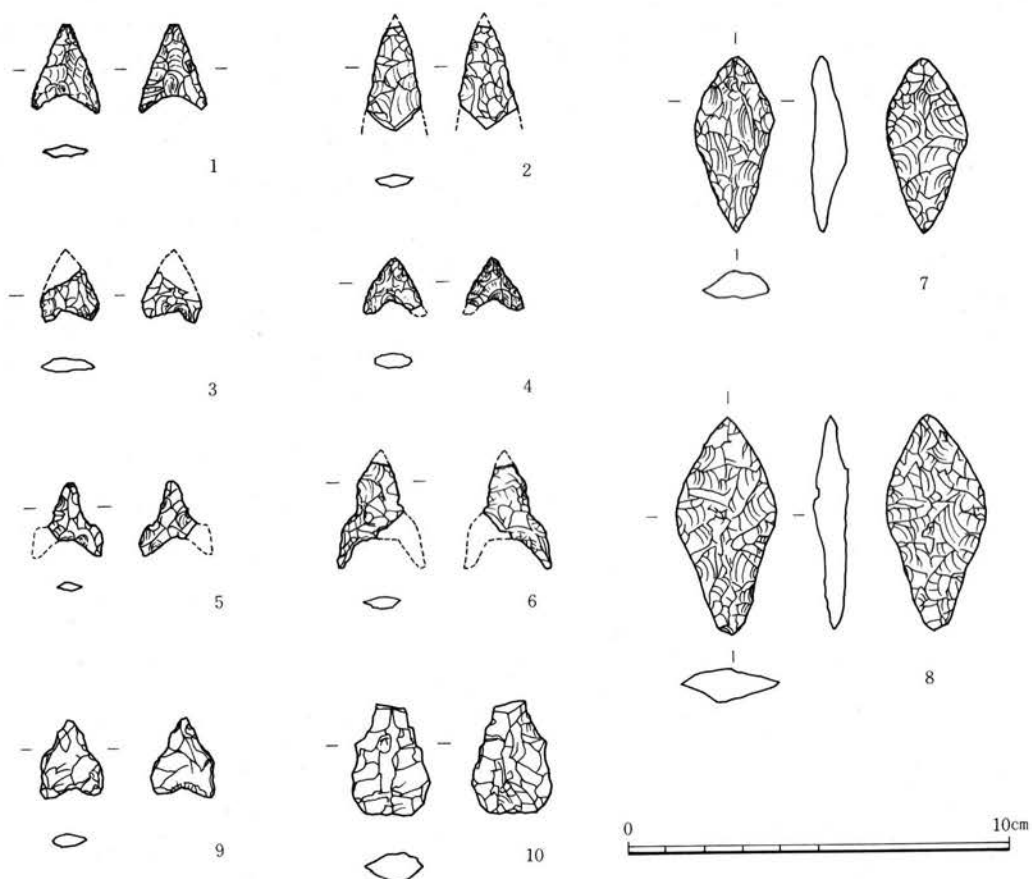
(4) 石 器 (第24図1~8)

1~6は石鏃。概して薄手であり、1は石英安山岩質の凝灰岩製。2・3・5・6は変質した安山岩製で、2は比較的細長い。5・6はやや特異な形態をしており、脚部で左右に張り出し逆「U」字形のわたくりを持つ。4は黒曜石質で、丁寧に剝離を施した優品である。7・8は石鏃というより石槍に近いものであって、銚先に使用したものと考えられる。石川県珠洲郡新保遺跡^{すず}に類例が見られる。7は凝灰岩質の頁岩製。8は安山岩質と思われる。

(5) そ の 他 (第22図58、第24図9・10)

前記の75年12月の調査で採集した遺物で、当遺跡とは若干場所が異なるが、地理的に非常に近接しているためここで取り扱う。

土器片58は縄文式土器であり、縦方向の撚糸文が施されている。石器9は無斑晶の安山岩もしくは玄武岩製の石鏃である。石器10は流紋岩質の凝灰岩製。これも石鏃と思われるが、大型で厚く形態も他のものと比較して異なるため、石鏃と断定することは早計であろう。



第24図 通り鼻遺跡採集石器

以上、遺物を紹介してきたが、土器については、1～5は新保式（縄文時代中期初葉）の様相を呈した爪形文であり、40～42の縦の羽状縄文は中期初葉～前葉にかけて普遍的に見られるものである。24・25の格子目状の文様もこの時期には類例が多い。11・36～38の波状の文様は前期末葉の様相を受け継いだものであろう。新保式に最も一般的な木目状捺糸文が見られないことは、若干時期が下降する要因となる。17の「入」字状口縁は新崎式（中期前葉）に特徴的なものである。また、この時期にはいわゆる蓮華状文が一般的であるが、19～21の縦方向の文様はこれに準ずるものとみたい。器形はキャリパー形深鉢と口縁部で外反する深鉢とがあり、口縁は平坦で幅の広い平縁が多く、波状口縁は見られない。以上のことから、新保式～新崎式（中期初葉～前葉）に相当する時期を与えても大過ないと思われる。

57の三角連続圧痕文は他の土器片とは明らかに時期が異なっており、気屋式（後期前葉）のものであろう。器形もこの時期に一般的なタイプの深鉢と考えられる。

土偶、耳栓は土器片と時期が並行すると思われるが、中期中葉あるいは後葉まで下る可能性も

残されている。これらの時期が下るとすれば、土器片との時期的差異が問題となる。すなわち、中期中葉以降にまで下る土器片があることも十分考えられ、風化のため割愛したものも合わせて今後検討したい。

石器については、石鏃は、5・6が若干特異であるが、概して中期の様相を呈している。おそらく、土器片と時期を同じくするものと思われる。石器7・8・10は的確な名称、用途をつかみ得ず、7・8は銚先に使用されたと思われ、10は比較的大型の石鏃、あるいは、石錐の可能性もある。今後、より深い考察が必要であろう。

註 串田新式（中期後葉）の様相を呈した土器片が多いが、蓮華状文、コンパス文も見られる。

2 節 横穴群および能登式製塩土器

横穴群

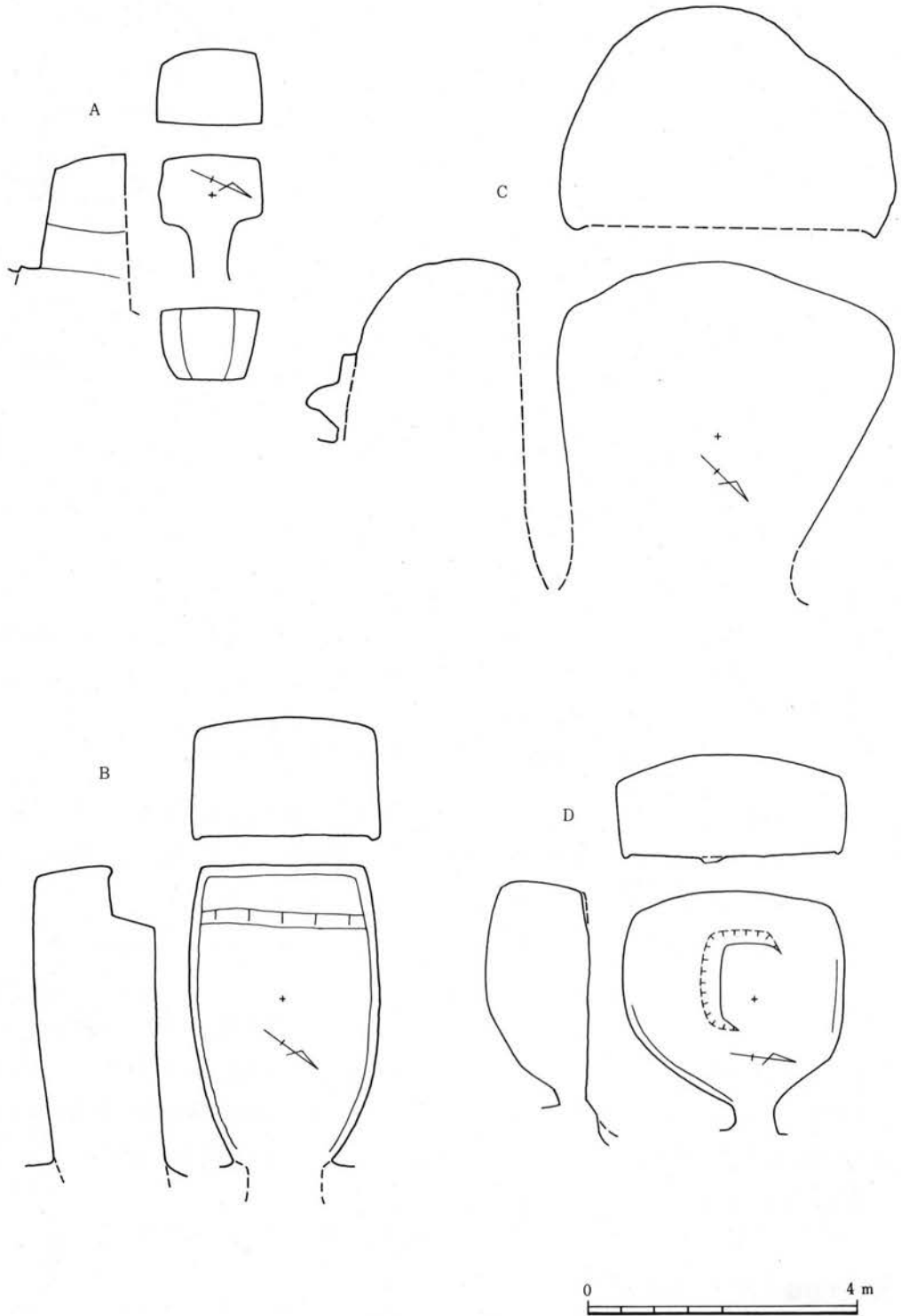
既応の調査において、能登島の東部海岸地域では横穴が多数確認されている。すなわち、石川県遺跡地図に記載されている鰻目コーケヤ横穴群、長崎古屋敷横穴群、野崎横穴群などである。当研究会では、2回にわたり上記各横穴群の分布調査を行なったが、立地、形態等から、確実に横穴古墳と認められるのは長崎古屋敷横穴群の2基のみで、他はいずれも検討の余地があろう。以下に、既知の各横穴群および74年7月の調査で新たに確認した鰻目細川山横穴群（仮称）の位置、環境を概述したい。

鰻目コーケヤ横穴群（地図53番）は東部海岸の北部、泊^{とまり}地内に位置する。泊の南西側、人家裏の崖上に3基が確認された。これら3基はいずれも平地から3m程の高さにあり、約15mの間隔において並んでいる。北側から順に1（第25図A）、2・3（B）号とする。

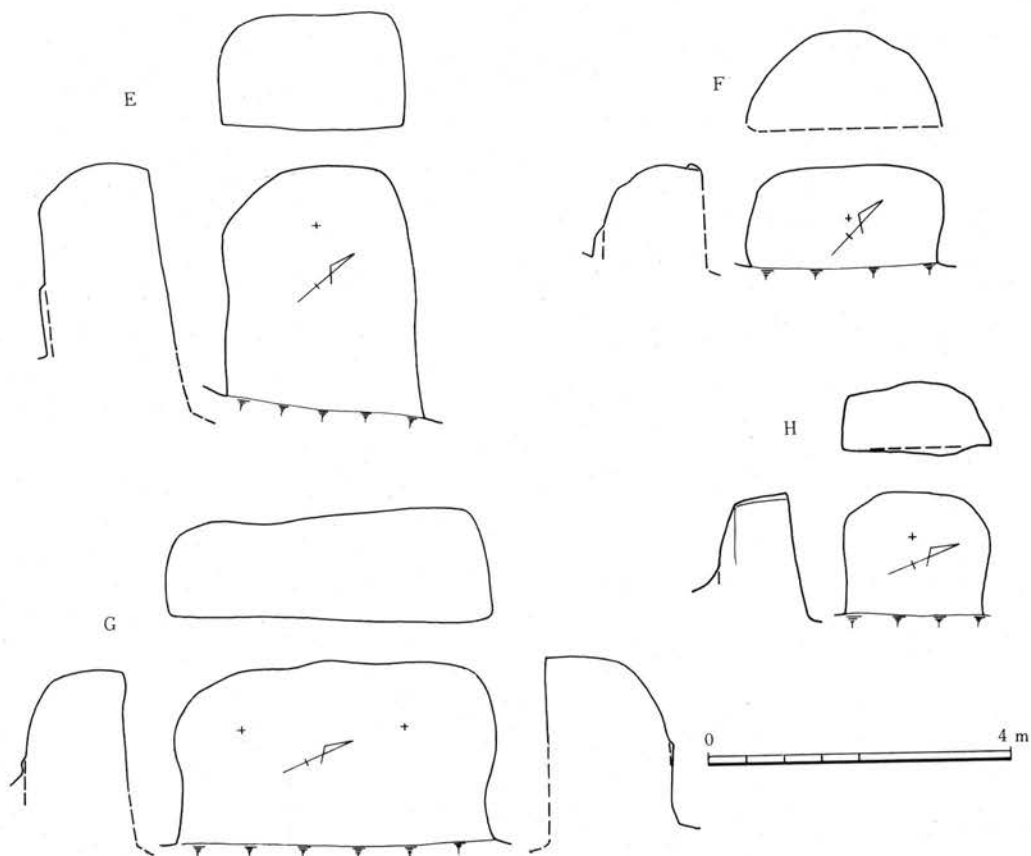
さらに、泊の南方、鰻目地内で新たに鰻目細川山横穴群（地図52番）を確認した。4基の横穴は、鰻目地内を南北に貫く道路により丘陵が切断された切り通し付近にある。1～3号横穴は道路のすぐ西側にある緩やかな丘陵の鞍部にあり、4号横穴は道路を隔てた向い側に、半ば切り崩された状態で存在する。1号横穴（C）もかなり崩れているが、最も横穴古墳の可能性が強いと思われる。

長崎古屋敷横穴古墳群（地図47番）は、長崎地内の南東約250mの断崖面に位置している。崖下の平地は耕作地となっており約150mを経て海に至る。確認した2基中、1号横穴（D）は平地から約10m、2号横穴は約12mの高さにある。

野崎横穴群（地図40番）は東部海岸の南部野崎地内に位置している。地内の南西側にある神社の裏は断崖となっており、その断崖面に上下2段をなして7基が確認された。平地との比高約1



第25図 能登島東部海岸の横穴略測図 (1)



第26図 能登島東部海岸の横穴略測図(2)

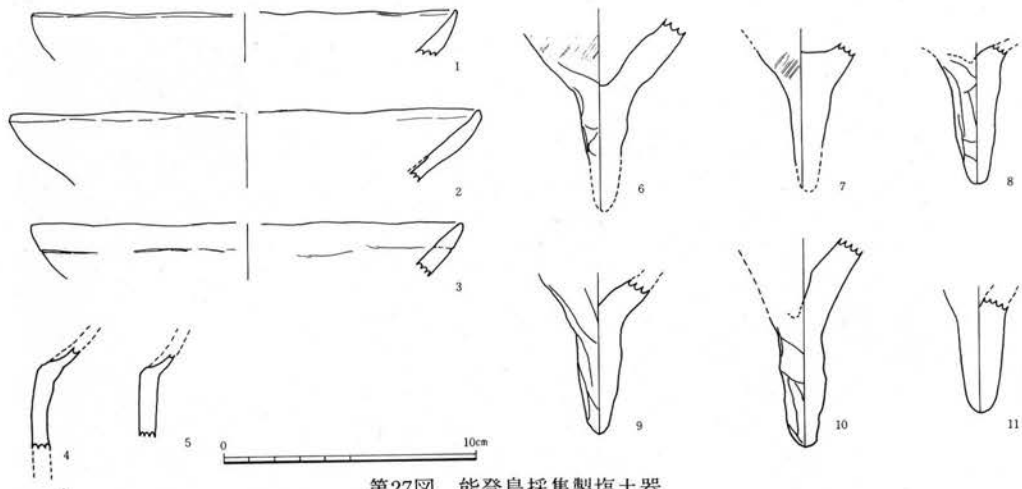
mの下段の南側から1・2・3号(第26図E)、約4mの上段の南側から4・5—6・7号(F・G・H)とした。1・2号は奥壁のみを残しているように思われるが、横穴と断定することは避けたい。5—6号横穴は、各々別に造られた後連結されたものと考えられる。

上記の各横穴群は、概して、海に面する断崖面に造られており、海岸とも比較的近接している。また、平地との比高も10m内外と低い。形態的には、調整が粗雑で、玄門、羨道等も明確でない。さらに、ほとんどの横穴が棺台を持たず、鮮目コーケヤ3号横穴の場合も棺台とは認め難い。このような点で、他地域の横穴古墳群(石川県加賀市法皇山横穴古墳群、同志雄町寺山、小谷屋横穴古墳群、同珠洲市の横穴古墳群等)とは様相を異にしており、長崎古屋敷横穴古墳群を除いて、他の3横穴群が、古墳群でないのか、あるいは、そうであって前述の特徴が地域的なものであるのかは、今後の精査に委ねたい。

能登式製塩土器 (第27図1~11)

74年の調査で能登式製塩土器片を採集しているので、ここに紹介する。

長崎古屋敷遺跡(地図48番)で30数片採集している。この遺跡は、長崎古屋敷横穴古墳群のあ



第27図 能登島採集製塩土器

る断崖の前面に位置する。1～3は口縁部。4・5は頸部。6～10は底部である。

なお、通り鼻遺跡眼下の海岸でも1片採集している。(11)

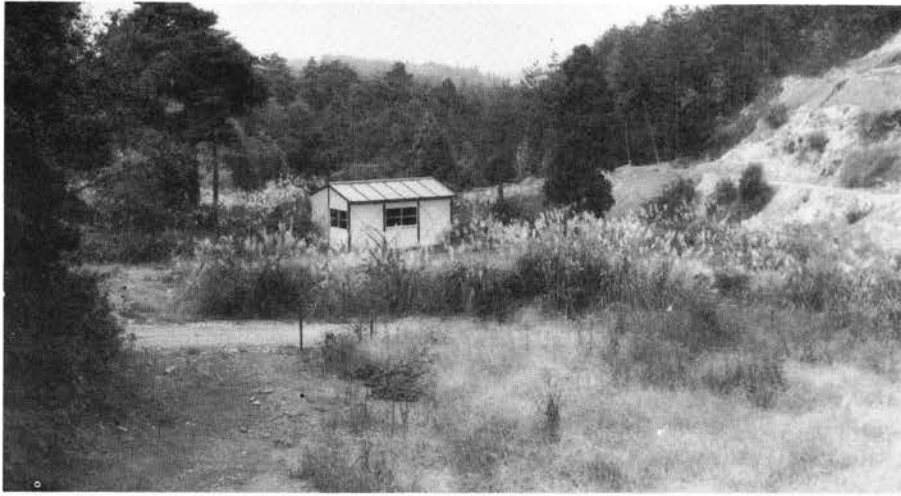
最後に、本章作成にあたっては、吉岡康暢氏、小嶋芳孝氏の御協力を受け、また石質鑑定にあたっては、山崎正男氏の御教示を得ている。記して感謝の意を表したい。

参 考 文 献

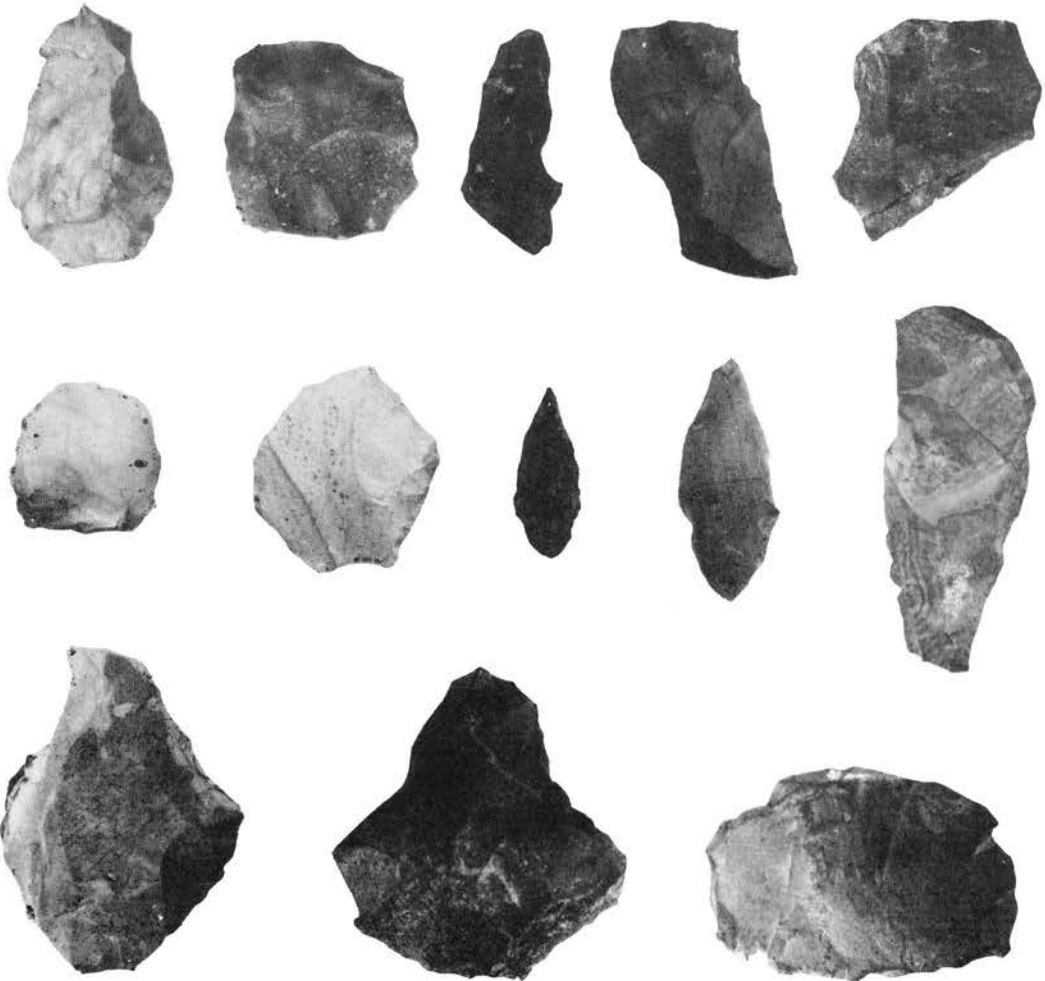
- 1) 高堀 勝喜 「縄文文化の発展と地域性—北陸」『日本の考古学』II 1965
- 2) 「装身具の変遷—耳栓」『古代史発掘』②縄文土器と貝塚 1973
- 3) 湊 晨 『富山県史』考古編 1972
- 4) 「原始と古代の福光地方—竹林遺跡」『福光町史』上巻 1971
- 5) 石川考古学研究会・珠洲郷土史研究会 「珠洲郡松波町新保遺蹟の調査」『石川考古学研究会々誌』第4号 1952
- 6) 小島 俊彰 「北陸における縄文前期末の様相」信濃史学会『信濃』20巻第4号 1968
- 7) 小島 俊彰 「北陸の縄文時代中期の編年」富山考古学会誌『大境』第5号 1974

編 集 後 記

当研究会は、入会して初めて考古学に接する会員が多く、学習会を設けたり識者の御教示を受けながら、知識を深めてきた。その成果として、昨年、活動報告第1号を刊行するに至った。今回の報告書では、全会員が旭台、長滝B、蒔生窯、能美、能登島の各班に分かれ、おのおの実測図、拓本等の整理、原案作成に当たった。しかし、取り上げた遺跡が広範囲に及び、資料整理に多くの時間を費やし、原稿作成は難行した。最終原稿にあたっては、合宿を行ない、協議が夜を徹することもあった。各項目間には用語や図版類に関して不一致な点も多いが、ここに、まがりなりにも第2号刊行に至り、これを踏まえて一層の発展を期したい。



旭台遺跡



同遺跡採集石器類（縮尺不同）



旭台遺跡採集石器類



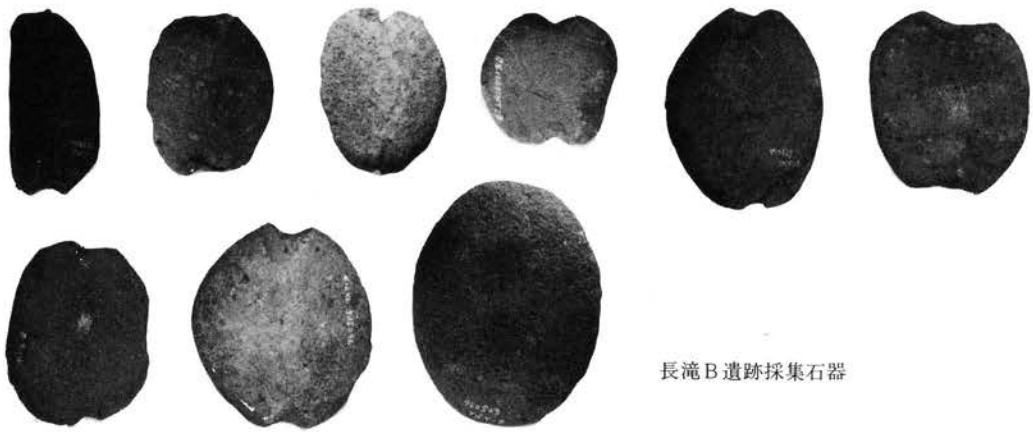
長滝B遺跡遠景
(助生遺跡より)



同遺跡近景
(矢印は助生遺跡)



同遺跡採集石器 (縮尺不同)



長滝B遺跡採集石器



同遺跡採集土器



長滝B遺跡採集土器



筋生城山奥遺跡



同遺跡採集土器



下徳山A遺跡



同遺跡採集土器



荻生城山下遺跡



同遺跡採集土器



大口遺跡



同遺跡採集石器



大口奥遺跡採集土器



来丸さくらまち 採集埴輪



西山古墳群



末寺山古墳群



能登島町

通り鼻遺跡



同遺跡採集石器・耳栓・土偶(縮尺不同)



通り鼻遺跡採集土器



能登島町長崎古屋敷遺跡採集製塩土器